

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592000089		
法人名	株式会社耕智		
事業所名	グループホームこころみ		
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北16975番地3		
自己評価作成日	令和5年12月12日	評価結果市町村受理日	令和6年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosvo_index=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosvo_index=true</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和6年1月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても住み慣れた地域の中で馴染みのある方々と共に生きることができる喜びを感じていただけるよう真心こめて支援しています。  
開設当初からの利用者さんも何人もおられ、今後訪問看護事業所とも連携を図りながらご家族様の要望にも答えたいと思います。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住み慣れた地域で、このホームを第二の我が家として、ともに助け合い、支え合い、楽しみあって、皆が笑顔で生活できる事を心から願っている。管理者と職員は熱意と誠意をもってその実現に取り組んでいる。コロナ禍以前は地域住民とは日常的に協力関係を築き自治会の地域活動清掃作業等に参加している。今後、事業所の力を活かした地域貢献として災害時の避難所開設を考えている。地域に開かれたホームとして利用者と住民の繋がりを深めることに努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉に貢献する	利用者が生まれ育った土地で地域住民として自分らしく安心した暮らしを支えるため、職員はともに助け合い、支え合い、楽しみあうことが出来るように常に利用者に寄り添うことを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所、学校、理髪店、食堂等が近所にある。毎月始めにはお便りを持って元気にあいさつにいられたりして交流が図られている。	コロナ禍も緩和され環境も改善しつつあるが、緊張感ある対応をしている。窓越し面会や県外親族とは検査キッド対応を行っている。隣保班の理容室利用では住民の情報収集や保育園児との週報交流はできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域イベントに参加したり、認知症状について近所の方に話したりする機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当、知見の職員、家族代表に参加していただき隔月に開催をしている。利用者状況、活動報告を行い参加者からアドバイスを受けている。	コロナの5類移行により会議の開催方法が緩和された。人員と空間を考慮して開催したり、状況により書面にしたりと柔軟な対応をしている。現在は活動報告や質問事項の提出、また、行政機関からコロナ対策や指導等を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	隔月に運営推進会議を開催して情報の提供を行っている。行政と管理者等の意見交換会があり参加している。	高齢化と環境の変化は利用者の介護度を引き上げている。対応として、行政へ研修の要望を行ったところ、管内の事業所を対象に調剤薬局の薬剤師の薬剤研修を実施してもらえた。積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的にスタッフが持ち番で研修の機会をつくっている。	「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解するため介護現場を学習の場としている。その時々々の状況を取り上げ「なぜ」を話し合いながら修正している。薬の使用の拘束についても理解を深めている。	

宮崎県都農町 グループホーム「こころみ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は研修等に参加して職員への通達を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修等に参加して学んでいるが、実際に使われている方はいない。必要時には伝達することができる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い書面にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に数回家族へのお便りの発行や運営推進会議出席時に意見を聞き今後、イベント等の希望は取り入れたい。	お便りや電話、運営会議等でまめに意見交換し、家族の要望や希望を傾聴する事で、思いを表しやすい環境作りに努めている。コロナ禍であっても対策を講じ百歳の利用者と家族の面会を実現した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間事業計画作成時に希望を聞きとり、事業計画の中に盛り込んで実施している。	年間行事計画作成時全職員が参加している。実施から結果と評価に携わることで日々業務に提案や工夫が加えられ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限りの環境整備には努めているが、給与水準等介護報酬が上がらないまま最低賃金だけが大幅に上がってきて実績等で賃金の差をつけたいがつけられない状況にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内はもちろん、グループ法人の施設と合同で研修をしていくことを可能な限りしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修もできるだけ参加できるよう皆で協力している。又、持ち帰ったものを勉強会等で皆で共有しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に困っている事について聞き取り、ミーティングを行いながら要望に答えられるよう信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して生活が出来るよう、在宅時の趣味や共通する話題等を引き出せるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援事業所や行政との連携を図り、報連相を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの立場をふまえ、人生の先輩として聞き役になったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの担当を決めており、不足品や季節ごとの衣類、寝具の依頼等を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会や電話の際は家族の方にも面会があった旨の報告を行っている。	窓越し面会を継続している。コロナ禍でも知人や親戚の面会があった時には家族にその旨を知らせている。そうすることで家族関係はもとより知人関係も良好な関係を築き繋がりを強めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の体操や食事時間等、全員が参集できる時間帯を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も近況を伺ったり、必要な機関との連携を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者間の関係性を大切にしながら要望等を聞き入れている。	人生の先輩として尊敬し対応をしている。また、父母であり祖父母の感覚で一人ひとりから暮らし方の希望、意向を聞き取っている。敬語や方言を上手に使い分けし、利用者が自分自身を表現できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし方や、入居してからの生活について日々の生活に生かせるように利用者さんとのコミュニケーションに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り等で意見交換を行ったり、申し送り帳を活用してスタッフの意識の統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの実施記録の記入を行っており、状況変化時は臨時にカンファレンスを開いたり、スタッフ個人の思いを記入するようにしている。	職員はプラン作成、評価に携わり、日々の記録やカンファレンスシート、課題等の情報を共有している。必要な関係者と話し合い現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録記入者を決めており、ヒヤリハットや重要引継ぎは必ず見たサインをするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師や調理の意見を取り入れながら体調管理や食事摂取等にも配慮している。		

宮崎県都農町 グループホーム「こころみ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方との窓越しの交流、ビデオレターを頂いての交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族等の希望で決めている。受診には家族送迎で行い、情報交換ノートを活用し主治医に報告している。	家族の希望するかかりつけ医を受診している。各医師とは情報交換ノートを作成活用している。専門医を必要とする場合主治医が紹介し管理者が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化や気づきは記録に残し、看護職に伝え服薬・処置等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族との連携を図り情報の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の事前確認書を作成し家族に移行の確認・同意をいただいている。	緊急時の事前確認書を作成している。利用者や家族に緊急時の対応について必要事項を説明し意向の確認(主治医の意見書、ホームの対応等の)と同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変・事故に備えて対策や処置方法、連絡網の作成等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難経路の確認方法等の作成を行っている。	コロナ禍で住民の協力を得ての訓練は出来なかったが消防団と災害避難訓練を行った。ホームの立地から崖崩・津波災害の心配が無いことで地域住民の避難所の申請を予定している。地域に貢献したい意向	広い敷地、小規模多機能との併設を活かし今後、職員のスキルの向上と体制作りや備蓄検討を行い、更に地域との協力体制を築き、地域を支える開かれた事業所にする事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや言葉遣いに気を付けて接しているが、友達感覚になる事もあるので自分も含め施設全体で気をつけるようにしている。	職員は利用者の一人ひとりの人となりを理解し関係を深めることを大切にしている。プライドを傷つけない自然な声掛けや言葉使い、プライバシーを損なわない言動を心がけている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重しているが希望に添えないこともあるので十分に話し理解していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態・状況によって職員優先になってしまうこともあるので、落ち着いて支援していくよう心掛けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に職員が選んでいるので、本人にも選んでいただくようにしていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今現在、一緒に準備や片付けは難しく行っていないが、スタッフ・入居者の方と共に食事をしている。	コロナ禍で宅配業者の介入は食事環境が様変わりした。利用者の食への関わり方も変化している。高齢化に伴う嚥下状況に合わせた介護食、誕生日の希望献立の導入、手作りおやつ、園庭レストラン等を支援している	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて食事形態を作っている。 お粥、刻み、ミキサー等 毎食前に必ず口腔体操している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケア誘導を行い、本人が出来ない部分は介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を支援している 便器に座ることで排尿、排便がしやすく応じることが多くみられる。	自立排便を目指し、水分管理、食材の選択、腹部マッサージトレーニング、排泄習慣を活かした誘導を支援している。3名の利用者が自立改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動を取り入れ、個々に応じて腹部の軽いマッサージ、水分等考慮している。 果物の摂取をもう少し多くしたらどうか。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴と入浴の間が長くないように曜日は設定しているが、希望も時には応じ、一人ひとりが気持ちよくなれるよう温度、水圧等配慮している。	基本的に入浴日を決めているが希望に応じている。ゆったりとした楽しい時間にする事、また、きずきにくい皮膚疾患や傷や打撲傷の有無などの確認も心掛け健康管理を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで傾眠、居室で午睡等個々に応じて休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については、細心の注意を払って誤薬の無いようにしている。 看護師と密に連携して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護度が上がり難しい面もでてきたが、個性を大切に楽しく生活を送っていただきたいと思っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援がほぼできていない。 少しでも外出して気分転換を図るようにしていきたいが、これは職員全体で話し合う必要があると思う。	コロナ禍で外出支援が難しくなっている。敷地が広く海拔が高いことからホームからの景色が美しく、近隣を散歩する事で気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解しているが家族管理をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自ら携帯で状態報告ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	席の配置や気の合う人等配慮、トラブルにならないように居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用の空間は温度、湿度管理や消毒を徹底し感染対策を行い、安全に暮らすことを第一にしている。利用者が楽しく、自由に行動できるようにイスの配置や季節の花を生ける等の工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり昔の写真を見たり、好きな本を読んだりできるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた好みの品等を配慮して居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者や家族の好みのお部屋作りを手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に番号を付けたり、トイレ等がわかるように「トイレ」の貼り紙をしたり目印となるものをつけている。		